

事業計画書



黒川町まちづくり計画書

平成31年3月

黒川町まちづくり運営協議会

町民憲章

1. 山と海に囲まれた自然豊かな黒川町を大切にします

**2. 人と人とつながりあえる
黒川町を目指します**

目 次

黒川町のイメージソング	2
町の木（樹）・花、シンボルマーク、塩屋の藤（古木）	3
はじめに	4
1. まちづくり計画書策定にあたり	(5～9P)
(1) 地域の元気推進事業について	5
(2) 黒川町まちづくり計画とは	6
(3) 特色ある取組みについて	6
2. 現状と課題	(10～30P)
(1) 黒川町の概要	10
(2) まちづくりアンケート結果	18
(3) 各団体等の意見	26
(4) 課題の整理	29
3. これからの黒川町	(31～37P)
(1) まちづくりのキーワード	31
(2) 基本理念（根本となる考え方）	31
(3) 将来像（町のイメージ）	32
(4) 基本計画	32
・各部会の計画	
4. 資料	(38～41P)
(1) 組織図	38
(2) 事業部会の構成メンバー	39
(3) 規約	40

黒川町イメージソング
～ 海と山と人と ～

作詞 黒川小学校4年生 (H14)・中島進

作曲 羽柴よしえ

ぼくたちの町 わたしたちの町
みんなの笑顔ひかる 黒川町
かがやく町だ みんなの町だ
ほかほか人が暮す 黒川町

もっこ踊りの 龍宮様
みこしをまつる 若宮神社
八坂神社に 観音堂
歴史を伝える 黒川

海がある 山がある 人がいる
海と山と人と

自然がテーマだファミリーパーク
世界にはばたく 黒川

ぼくたちの町 わたしたちの町
みんなの笑顔ひかる 黒川町

ぼくたちの町 わたしたちの町
みんなの笑顔ひかる 黒川町
かがやく町だ みんなの町だ
ほかほか人が暮す 黒川町

サンドアートに 凧揚げ大会
きれいな水の イマリンビーチ
塩屋海岸 貝いっぱい
伊万里の海だ 黒川

海がある 山がある 人がいる
海と山と人と

眺めが最高 大平山
頂上目立つよ こっぼ岳
高いそ一番 大野岳
山もそびえる 黒川

ぼくたちの町 わたしたちの町
みんなの笑顔ひかる 黒川町

ぼくたちの町 わたしたちの町
みんなの笑顔ひかる 黒川町

▼町の木（樹）



奥野区内にある榎（旧黒川中学校入口）は、樹齢400年以上の大木で、佐賀県の古木に指定されていて黒川町のシンボルになっています。平成28年の台風で県道上の枝が折れ、一部伐採されました。

▼町の花



黒川町は梅の栽培が盛んで、町内には大規模な梅園があります。町を代表とする花として、個人の庭にも植えられているところも数多くみられます。

▼シンボルマーク



黒川町のシンボルである山と海をイメージし、緑色と青色を黒川町の頭文字「K」を基に配置された爽やかなデザインになっています。

町の活力と飛躍をトルネード（旋風）として、その勢いを表現しています。

▼塩屋の藤（古木）



塩屋区の龍宮社にある藤は市内で最も古いものとされており、植物学上も大変貴重なものです。幹の大きさは地上から20cmのところまで直径約35cm、枝葉は東西約16m、南北約9mに伸び、推定樹齢は約260年とされています。平成29年の台風で大きな被害を受けたため、現在は、早急な補強が必要となっています。

はじめに

市街地から国道204号を車で北上して10分程走ると、朱色と白のコントラスト鮮やかな3基のグライアスクリーンが青空にそびえ立ち、潮の香りと共に青い海が広がる風景が飛び込んで来ます。黒川町のシンボルである美しい海が町への入口となっています。

町の南東には、玄海国定公園大平山があり、その山頂からは緑豊かな山々に囲まれた黒川町のほぼ全域を望むことができます。徳須恵川支流板治川に沿って栄える東部地区、立川両岸に形成された集落の西部地区、そして、拝川沿いには深山地区などの集落が点在しています。

昨年3月から新たに運行を開始した「町内巡回バスくろがわ号」の車窓からは、町民憲章に謳われているとおりの山と海に囲まれた風光明媚で自然豊かな私たちの町を見渡すことができます。

現在、町内においては、臨港道路や国道204号バイパス道路などの整備事業に加え、立川の整備工事についても計画的に進められていて、ここ数年で町並みも大きく変貌することが予想されます。

まちづくりの原点は、自然や町並み、長い歴史に培われてきた伝統や文化を財産として、町民が暮らしやすく、また、訪れやすい町となるように、町を愛し、誇りを守り育てていくことが大切であり、町民が主体となり、或いは行政との協働により形作られていくものとされています。

これまで、黒川町元気推進プラン（平成21年3月策定）を基に、地域の特性を活かした「夢みききクロスカントリー大会」をはじめとして、様々な事業に取り組んできましたが、計画策定から10年が経ち、この間、社会環境の変化と共に町民の意識も少しずつ変わってきています。

こうした状況を踏まえ、このたび、今後の黒川町のまちづくりに関する新たな基本計画を策定しました。これまでの取組みを継続するとともに、この計画を基に町民が地域に誇りを持って楽しく暮らせる町になるよう目指していきたいと思っておりますので、これからも黒川町のまちづくりのために皆さまのご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

黒川町まちづくり運営協議会

会長 崎田 洋一郎

1. まちづくり計画書策定にあたり

(1) 地域の元気推進事業について

人口が減少するなかで、少子高齢化をはじめグローバル化や高度情報化などの急激な社会情勢の変化に加え、人々の価値観の多様化や地域連帯感の希薄化などが進み、まちづくりの在り方についても大きな変革が求められています。

まちづくりの目指すものは、町に暮す一人ひとりの幸福度や生活の質の向上にあると言えます。そのためには、地域住民が主体的にまちづくりに参加し、まちづくりの目標・イメージを共有することが大切です。近年では、行政と住民が協力してまちづくりに取り組む協働型のまちづくりが広がっています。

このような中、伊万里市においては、地域の身近な課題は地域の特性を活かし、住民自らの手で解決に導く、自主的かつ自立的な地域づくりを行うため、平成19年度から「地域の元気推進事業」が開始されました。

黒川町は、推進地区として平成20年度から取り組んでいます。各種団体や企業等で構成される「まちづくり運営協議会」を中心に、地域における課題や資源を洗い出し、町の特性を活かした実践活動を展開することにより、住民自治の意識を高め、生き生きとした元気な地域づくりを推進しています。

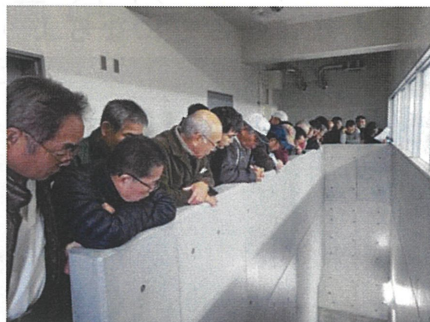
これまで、各機関が連携して「夢みさきクロスカントリー大会」「家読のすすめ推進事業」「防災のまちづくり事業」「ふるさと再発見事業」などに取り組んでいます。



夢みさきクロスカントリー大会の様子



家読集会の様子



防災のまちづくり事業の様子



ふるさと再発見事業の様子

(2) 黒川町まちづくり計画とは

黒川町まちづくり計画とは、まちづくりを推進するための基本計画で、これからの黒川町の進むべき方向性を明確にし、活力ある地域づくりのために町民みんなで作ってあげた黒川町の将来ビジョンです。

このビジョンは、黒川町の現状と課題を踏まえ、黒川町の将来像を明らかにしたうえで、その将来像を実現するための考え方と行動を整理したものです。



ふるさとまつりの様子（屋外ステージ）



ふるさとまつりの様子（屋内ステージ）



町民体育祭の様子



敬老会の様子

(3) 特色ある取組みについて

① 家読（うちどく）のすすめ推進事業（町で取り組んでいる事業）

伊万里市では、平成18年度に「いじめなし都市宣言」を行い、思いやりの心あふれるまちづくりを進めています。その実現のためには、子どもの心の居場所として家庭の存在が不可欠であると言われていています。しかし、近年、その家庭においては、家庭環境の複雑化や親子の会話不足など様々な問題が指摘されています。

こうした問題を解決するためには、まず家庭でのコミュニケーションが大切であると考え、黒川町においては、平成19年度から「家読連絡会」やボランティアグループ「おはなしどんぐり」を中心に読書を通じて親子のコミュニケ

ーションを図る手段として、「家読のすすめ推進事業」に取り組んでいます。

家読は、家庭読書の略語で、家族で同じ絵本等を読み、お互いの感想を言い合いながらコミュニケーションを図ることで、子どもの感受性を刺激し、情操教育にも大変良いものだと言われています。また、家読を重ねていくことで、文章の理解力の向上など、学習面での効果も期待できるとされています。

活動内容は、年数回のおはなし会や家読集会の実施のほか、各学校等に出向き絵本等の読み聞かせ活動やリレー家読なども行っています。また、平成29年度からは家読を市内に広めるため、「うちどく広め隊」を結成し、啓発活動を行っています。毎年3月の第1日曜日には、「家読のすすめ発表会」を黒川公民館で開催し活動報告を行っています。



家読集会の様子



家読のすすめ発表会の様子

▼黒川小学校の家読（うちどく）に関する保護者アンケートのご意見を一部ご紹介いたします！（黒川小学校保護者アンケート1月・2月まとめより）

- ・テレビをつけていないと自然に絵本を読んでいる。いいことだなあと思う
- ・一緒に子どもと本を読んで、ほっこりした。
- ・兄弟同じ場所で本を読みながら、趣味の話や学校の話などで会話が増え、楽しく過ごしていた。仲良くなった。
- ・学校の家読週間に合せ「ノーテレビデー・ノーゲームデー」を実施して、その間、家読をするのが習慣になってきた。



絵本を読んで、感想を話し合ってみてね！いろいろな考え方や意見があることに気付けると思いますよ～！



② 子ども伊万里塾開催事業

地方創生をより実践的に進めるため、伊万里市において平成28年度から開始された事業で、黒川町は開始当初よりモデル地区として、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいます。

対象は主に小学生で、夏休み期間中に「黒川キラリっ子スクール」として、毎年、10講座程度を開催しています。これまでに開催した主な体験講座は、企業・工場の見学に関するもの、自然エネルギーに関するもの、ダンス・スポーツに関するもの、文化・芸術に関するものなど、様々な分野の体験講座を開催しています。



高校書道部による書道教室



食生活改善推進協議会による料理教室



異文化交流（オランダ人講師）



サッカー教室（サガン鳥栖指導）



農林高校生徒による木工教室

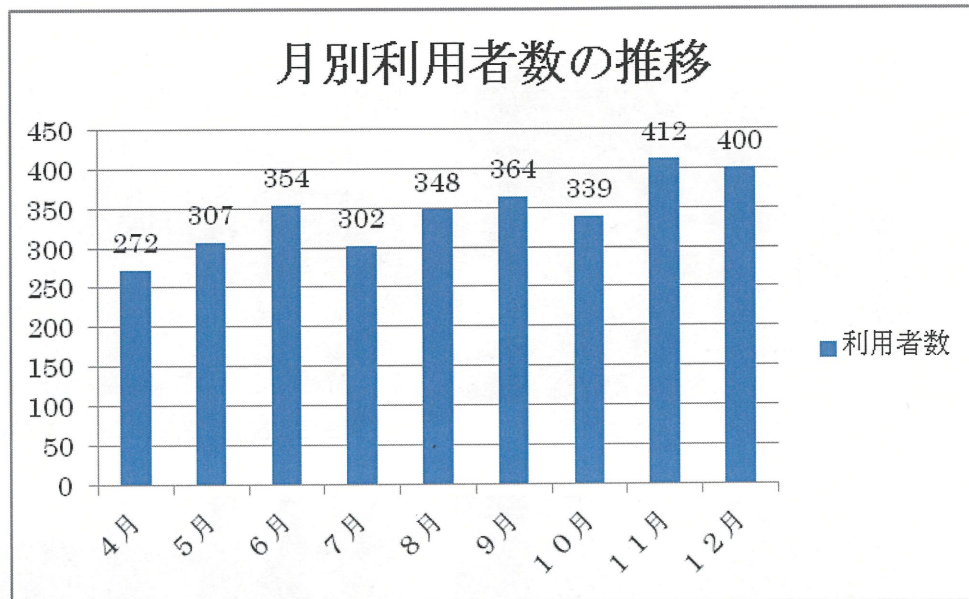


理科の実験講座

③ 黒川町小さな拠点づくり事業（くろがわ号運行事業）

国の補助金等を受け、平成30年3月20日より町内を巡回する「くろがわ号」の運行事業を行っています。実際の運行業務については、町内の企業に委託し、10人乗りの車両にインターネットで公募したデザインをラッピングして、1日3便、5コースを運行しています。利用料は1回100円となっています。

平成30年4月から12月までの利用者は延べ3,098人（運行日183日）で、1日平均約17人が利用されています。



（くろがわ号車両の写真）



**町民の皆さま！
ぜひ、ご利用ください！**



2. 現状と課題

(1) 黒川町の概要

① 位置・地勢・沿革



黒川町は、伊万里市のほぼ中央部に位置し、面積は約26.86平方キロメートルで、町域は蝶が羽を広げたような形になっています。東は南波多町、南は伊万里町、北は波多津町にそれぞれ隣接し、西は伊万里湾に面しています。

黒川町は、江戸時代以前、山林や原野が多く、農耕には不向きな地形が多かったようです。江戸時代に入ると大小の干拓工事が進められ、当時の町民は苦役のなかで田畑を造成し農地を拡大してきました。

明治4年に荘園制度が廃止されるまで黒川組、畑河内組の二つの組で構成されていましたが、荘園制度の廃止後、明治22年に二つの組が合併（一部は波多津村・南波多村に合併）し、黒河村となりました。その後、明治37年に黒河村が黒川村に承認され、伊万里市政が始まった昭和29年に黒川村も伊万里市黒川町となりました。

明治22年（1889年）	市町村制施行により黒河村となる
明治37年（1904年）	黒河村を黒川村として承認される
昭和29年（1954年）	2町7村合併により伊万里市となる

当時、行政区は18区でしたが、昭和48年の名村造船所の進出に伴い、各村団地を1つの行政区と認めて、現在は19区の行政区から成り立っています。

② 主な産業

町内を大きく3つの地域に分けると、西部地区、東部地区、深山地区に分かれます。西部地区は、国道204号に隣接していて、道路沿いには商店や集落が形成されています。また、佐賀県が昭和46年に造成した七ツ島工業団地も同地区内にあり、造船業を中心として鉄鋼やセメント工業などが盛んで、団地内の大型岸壁には、平成9年に国際コンテナ航路が開設され国際貿易の拠点としても発展しています。工業団地内の企業へ勤務する従業員数を合すると、2,000人を超え、その殆どがマイカー通勤のため、朝夕の通勤時には、国道204号をはじめ交通渋滞が酷く、交通事故も頻繁に発生しているため、現在工事が進められている臨港道路や国道204号バイパス道路の早期完成が望まれているところです。

そのほか、工業団地の周辺には、平成3年に海洋レクリエーション基地の1つとして建設された人工海水浴場「イマリビーチ」や平成18年に開園した「伊万里ファミリーパーク」（愛称：いまり夢みさき公園）があり、市内外から多くの観光客で賑わっています。



立川河川工事が進められている横土井周辺



国道204号バイパスと臨港道路の状況

東部地区は、水稲や水菜などの栽培に加え、伊万里ブランドとなっているキュウリの栽培などが盛んで、町民の多くは農業を営まれています。東部地区を走る県道297号線（塩屋大曲線）は、西九州道路谷口ICに繋がっていて、福岡市内まで約1時間で移動でき交通アクセスが大変便利な地区となっています。その反面、近年、多くの大型車両の交通量が増加していて、交通事故等が危惧されているところです。

深山地区は、自然豊かで主に農畜産業が盛んです。市農協が中心となって開発したブランド米「伊万里深山米」の栽培や、佐賀県を代表するブランド牛「伊万里牛」の生産にも適した自然条件が整っています。区内には、玄海国定公園の大平山公園もあり、そこからの眺望は大変素晴らしいと評判になっています。反面、深山地区は山間地で人口も少ないことから、交通手段が限られ、自動車免許を持たない高齢者等にとっては、大変不便な状況となっています。

③ 町内の施設・遺産（特色づけるもの）など



黒川公民館



黒川小学校



青嶺中学校



黒川幼稚園



林業研修センター



黒川ゲートボール場



大平山公園



伊万里ファミリーパーク



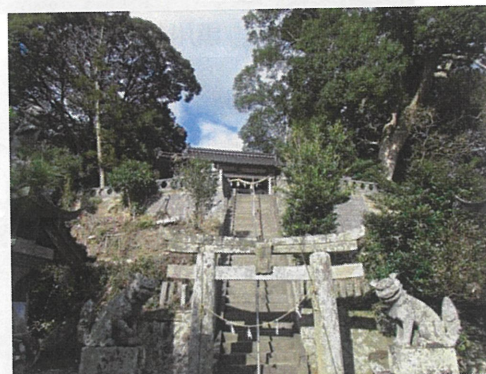
たんぽぽこども園



病院



若宮神社



八坂神社



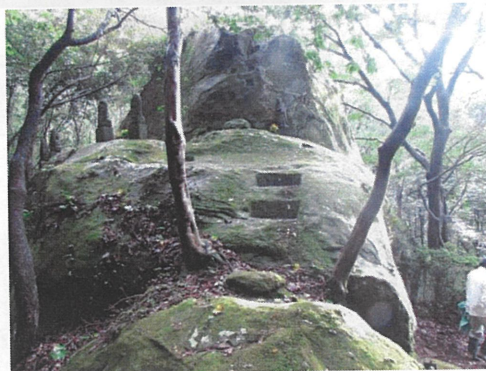
寺の川の清水 (横野)



伊万里市天然記念物サワラ (横野)



黒川佐源太夫の石碑



イロハ石



飛太郎岩



黒川新田



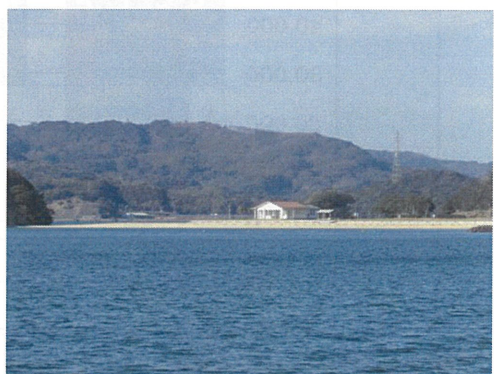
もっこ踊り



立川河川



みそごろうどんの足跡 (牟田)



イマリンビーチ



骨蓬岳 (熊野権現)



古賀宋閑の墓

④ 人口の推移

伊万里市の人口は、平成31年1月1日現在で男性26,610人、女性28,473人で合計55,083人となっています。高齢化率は30.59%、少子化率は13.97%となっていて、平成26年同月と比べると、人口は全体で2,232人減少し、高齢化率は4.26ポイント上昇、少子化率は、0.67ポイント減少して、この5年間においても少子高齢化が進んでいることがわかります。反面、世帯数は核家族化や老人世帯の世帯分離等の影響で、816世帯増加しています。

伊万里市の人口推移

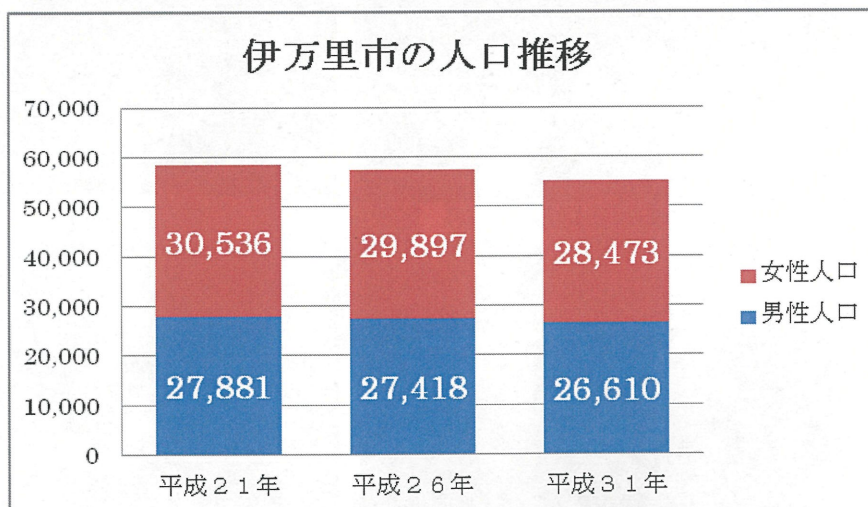
1月1日現在

年	男性人口	女性人口	合計人口	65歳以上人口	高齢化率	15歳未満人口	少子化率	世帯数
H21	27,881	30,536	58,417	14,366	24.59%	8,646	14.80%	21,735
H26	27,418	29,897	57,315	15,092	26.33%	8,393	14.64%	22,550
H31	26,610	28,473	55,083	16,852	30.59%	7,697	13.97%	23,366

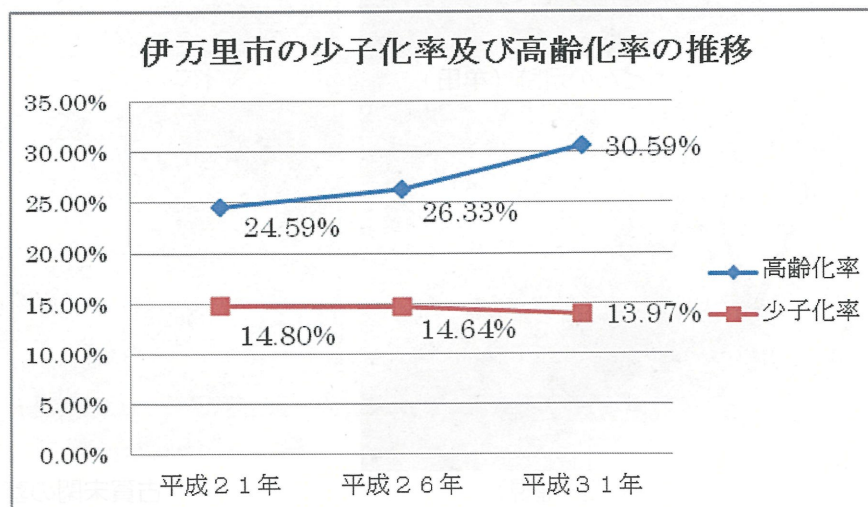
外国人含む

外国人含む

※出典先：伊万里市住民基本台帳統計情報より



出典先：伊万里市住民基本台帳統計情報より



高齢化率：65歳以上の人口が総人口に占める割合

少子化率：15歳未満の人口が総人口に占める割合

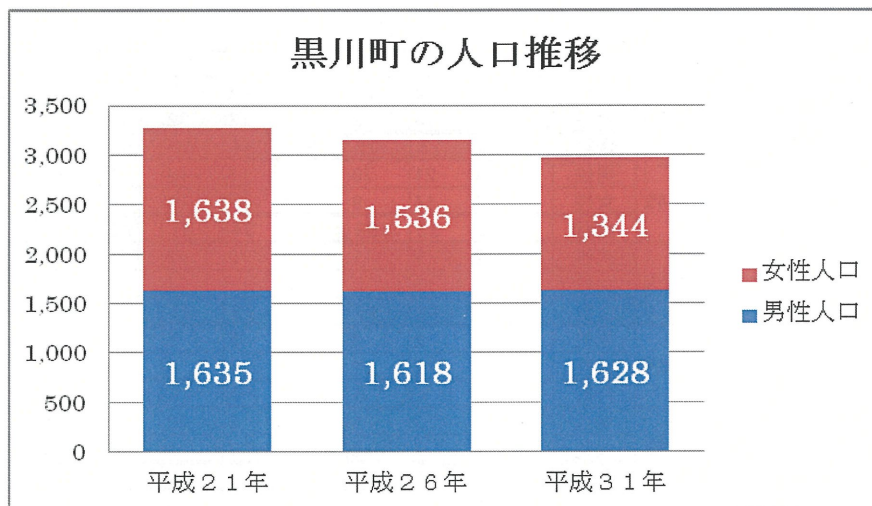
黒川町の人口は、平成31年1月1日現在で2,972人、高齢化率31.59%、少子化率10.63%となっています。黒川町でも5年前の平成26年と比べ、人口は182人減少、高齢化率は3.72ポイント増加、少子化率は3.35ポイント減少しています。市に比例して少子高齢化が進んでいます。世帯数は1,408世帯で、5年前より168世帯増加しています。

年	男性人口	女性人口	合計人口	65歳以上人口	高齢化率	15歳未満人口	少子化率	世帯数
H21	1,635	1,638	3,273	824	25.18%	441	13.47%	1,175
H26	1,618	1,536	3,154	879	27.87%	441	13.98%	1,240
H31	1,628	1,344	2,972	939	31.59%	316	10.63%	1,408

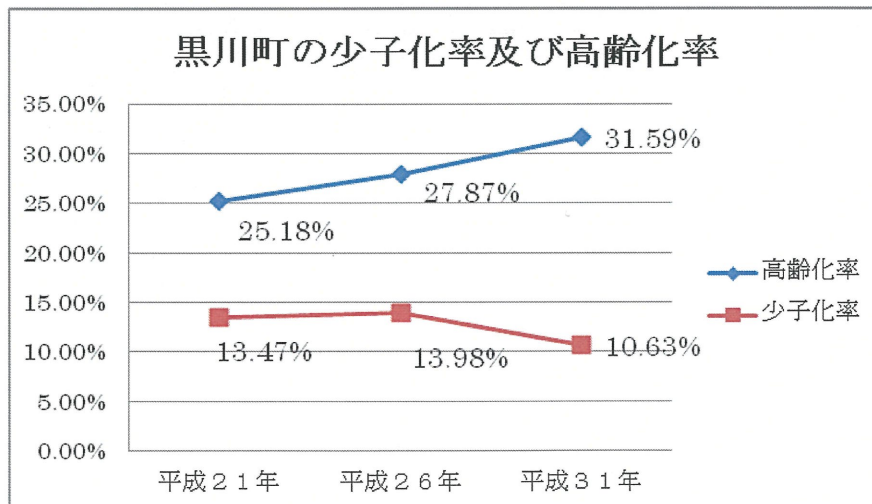
1月1日現在

外国人含む

出典先：伊万里市住民基本台帳統計情報より



出典先：伊万里市住民基本台帳統計情報より



高齢化率：65歳以上の人口が総人口に占める割合

少子化率：15歳未満の人口が総人口に占める割合

⑤ 年齢構成

黒川町の行政区別年齢構成は、下記の表のとおりとなっています。(ウ)

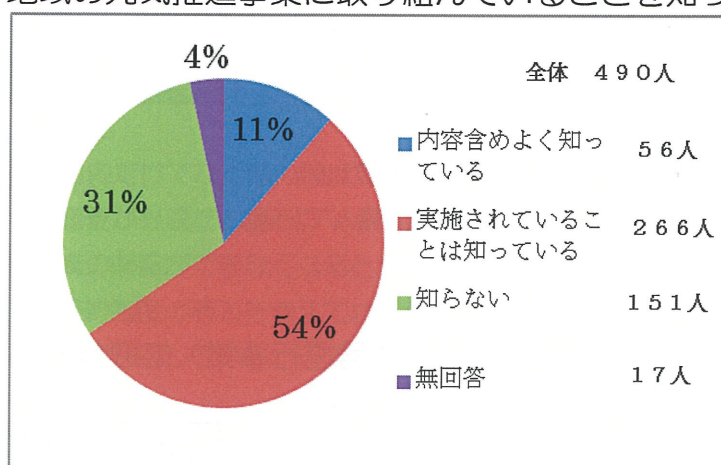
行政区名	世帯数	高齢化率	性別	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
福田	32	35.9%	男性	1	8	5	2	3	9	7	4	4	43
			女性	1	3	5	4	9	4	6	6	11	49
			合計	2	11	10	6	12	13	13	10	15	92
浦潟	18	30.0%	男性	1	1	0	3	1	3	8	2	2	21
			女性	3	0	1	5	0	4	7	2	7	29
			合計	4	1	1	8	1	7	15	4	9	50
干潟	18	47.6%	男性	1	0	1	2	3	1	7	4	1	20
			女性	1	3	1	0	3	2	6	3	3	22
			合計	2	3	2	2	6	3	13	7	4	42
大黒川	86	42.0%	男性	6	7	7	8	10	11	24	11	9	93
			女性	2	12	2	8	10	9	21	18	25	107
			合計	8	19	9	16	20	20	45	29	34	200
奥野	41	59.3%	男性	0	1	2	3	4	4	13	11	5	43
			女性	0	2	1	1	2	5	13	11	13	48
			合計	0	3	3	4	6	9	26	22	18	91
名村団地	449	10.8%	男性	37	43	295	59	24	6	6	20	8	498
			女性	44	13	21	39	17	5	6	32	2	179
			合計	81	56	316	98	41	11	12	52	10	677
塩屋	144	32.6%	男性	11	12	23	16	22	17	31	23	7	162
			女性	13	13	12	22	12	32	27	24	27	182
			合計	24	25	35	38	34	49	58	47	34	344
小黒川	184	19.4%	男性	8	21	79	21	17	16	17	13	5	197
			女性	7	14	9	10	17	15	11	10	14	107
			合計	15	35	88	31	34	31	28	23	19	304
浦分	95	45.0%	男性	2	7	11	7	10	17	21	18	9	102
			女性	3	5	6	5	12	14	22	20	20	107
			合計	5	12	17	12	22	31	43	38	29	209
黒塩	35	41.6%	男性	4	2	3	3	5	5	7	5	3	37
			女性	5	2	2	3	1	4	5	8	10	40
			合計	9	4	5	6	6	9	12	13	13	77
榑原	48	40.3%	男性	4	7	1	2	5	10	13	5	8	55
			女性	1	7	3	1	7	8	15	9	18	69
			合計	5	14	4	3	12	18	28	14	26	124
清水	21	53.2%	男性	1	0	0	3	0	5	5	5	4	23
			女性	1	1	0	3	0	4	2	4	9	24
			合計	2	1	0	6	0	9	7	9	13	47
横野	11	37.5%	男性	0	3	1	3	3	3	2	4	2	21
			女性	1	3	1	1	3	3	1	4	2	19
			合計	1	6	2	4	6	6	3	8	4	40
立目	22	33.9%	男性	3	0	3	5	1	5	4	3	5	29
			女性	6	0	2	3	1	4	4	3	7	30
			合計	9	0	5	8	2	9	8	6	12	59
牟田	23	45.5%	男性	2	4	0	3	2	6	6	5	1	29
			女性	2	1	4	1	6	3	7	3	10	37
			合計	4	5	4	4	8	9	13	8	11	66
花房	25	33.8%	男性	2	4	3	5	5	3	6	5	2	35
			女性	6	1	1	2	4	3	6	5	5	33
			合計	8	5	4	7	9	6	12	10	7	68
畑川内	66	38.4%	男性	5	7	6	12	10	14	14	11	15	94
			女性	9	9	10	6	8	15	19	14	22	112
			合計	14	16	16	18	18	29	33	25	37	206
長尾	28	37.5%	男性	5	7	3	2	7	4	9	6	5	48
			女性	1	4	4	4	7	6	9	6	7	48
			合計	6	11	7	6	14	10	18	12	12	96
真手野	53	44.4%	男性	6	7	3	7	6	11	12	15	9	76
			女性	2	10	9	6	6	12	16	16	18	95
			合計	8	17	12	13	12	23	28	31	27	171
敬愛園	9	100.0%	男性	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
			女性	0	0	0	0	0	0	0	1	6	7
			合計	0	0	0	0	0	0	0	1	1	9

(2) まちづくりアンケート結果

アンケートの結果を次のとおりまとめました。町内804世帯（文書等配布世帯数）のうち、490世帯（人）から回答がありました。（回答率：60.9%）

▼回答者内訳 男性332人、女性141人、無回答17人【調査期間：H30.9.7～H30.10.18】
 20歳未満(0人) 20～29歳(9人) 30～39歳(30人) 40～49歳(35人) 50～59歳(95人)
 60～64歳(81人) 65～74歳(147人) 75以上(76人) 無回答(17人)

① 地域の元気推進事業に取り組んでいることを知っていますか。

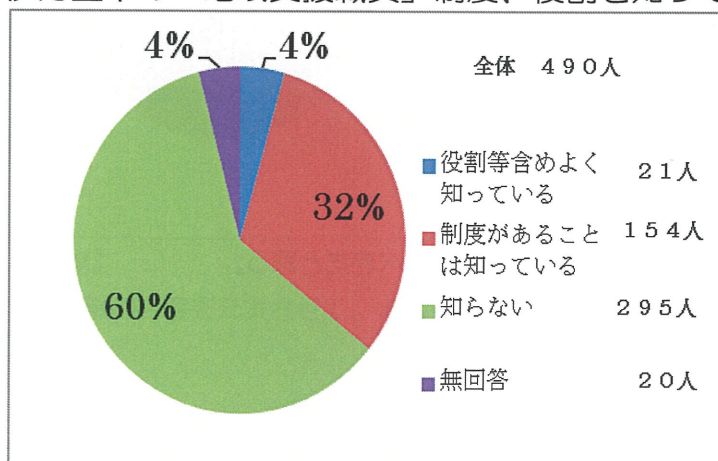


事業開始から、10年が経ちました。回答者の85%が認知されているようです。

【意見】

- ・とても良い事業だと思う。継続してほしい。
- ・事業を多くしなくてもよいのではないか。
- ・家読の事業については子どもが参加している。参加しないと分からない。

② 伊万里市の「地域支援職員」制度、役割を知っていますか。

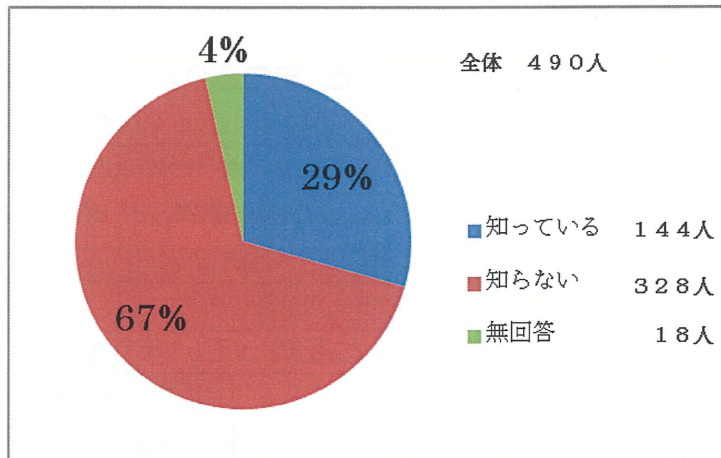


「よく知っている」、「知っている」を合すると36%で、無回答4%を除き60%の町民には認知されていませんでした。もう少し、町内会議等において制度を周知する必要があるようです。

【意見】

- ・制度の周知ができていないのではないか。
- ・もっと積極的に出てきてもらいアドバイスをいただきたい。

③ 子ども伊万里塾開催事業に取り組んでいることを知っていますか。

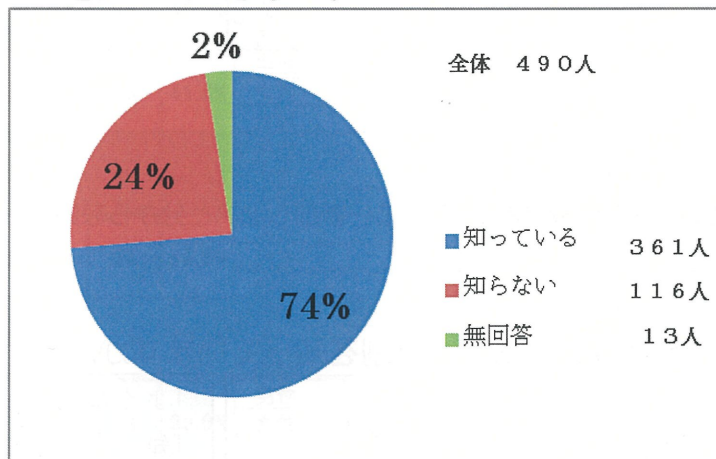


「黒川キラリっ子スクール」として夏休み期間等を実施しています。黒川町では、平成28年度から取り組んでいますが、高齢者の方々への認知度がかなり低いようです。

【意見】

- ・とても素晴らしい取組みだと思う。継続してほしい。
- ・いろんな講座を体験でき、子どもたちは大変喜んでいる。

④ 黒川町小さな拠点づくり事業（くろがわ号運行事業）に取り組んでいることを知っていますか。

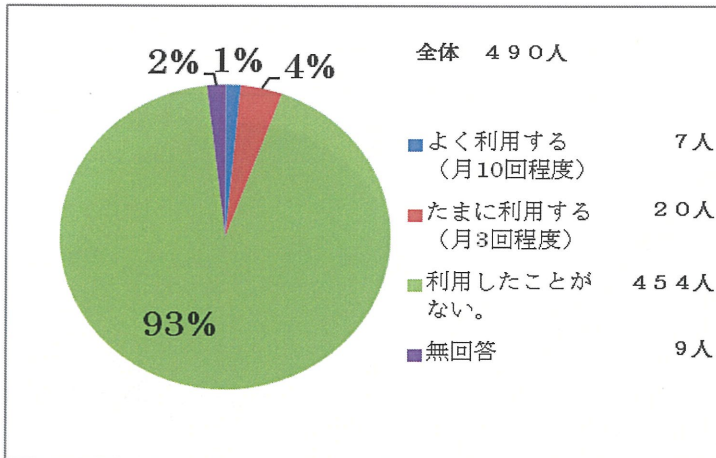


平成30年3月20日から「くろがわ号運行事業」に取り組んでいます。回答者全体の74%に認識されていました。今後も利用促進と周知を図っていきます。

【意見】

- ・活用方法の拡充が必要ではないか。
- ・乗る人が少ないので、無駄ではないか。
- ・開始から1年を経過したところで再検討すべきだと思う。

⑤ 町内巡回バスくろがわ号をどのくらい利用しますか。

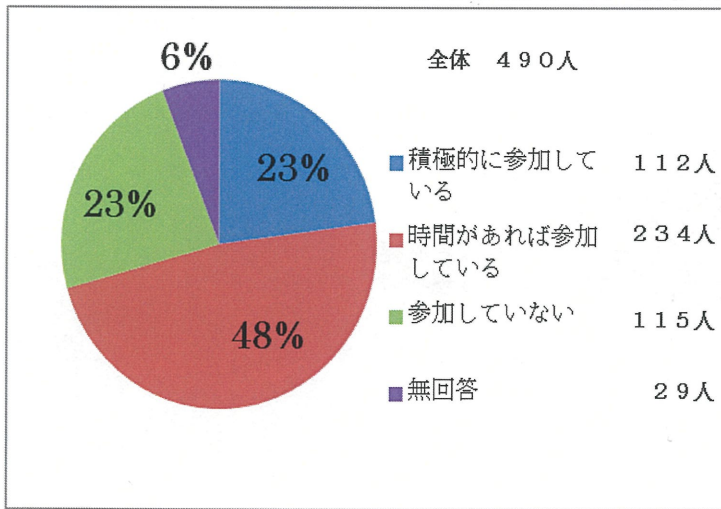


回答者全体の5%が利用されています。現在、10人乗りのバス1台で巡回しているため、バスの利用者が限られています。今後は、利用者拡大のため、運行車両やコース等について検討が必要となります。

【意見】

- ・町内だけでなく他の地域を回るようにしてほしい。
- ・増便が必要だと思う。
- ・車の運転ができなくなると大変重要な事業である。
- ・予約制度の導入を考えてはどうか。
- ・母が利用している。とても助かっている。

⑥ 町や各種団体、公民館行事等に参加していますか。

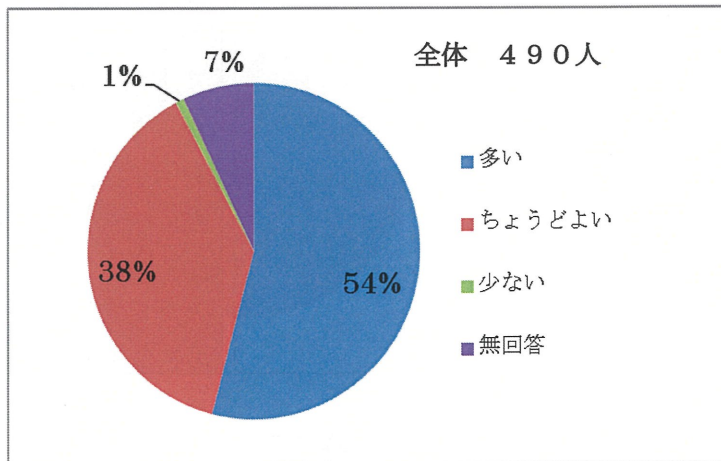


「積極的に参加している」「時間があれば参加している」を合すると71%となりますが、無回答を除く23%の方は参加されていませんでした。今後は、より町民が参加しやすい行事運営について検討が必要となります。

【意見】

- ・行事の内容を充実させて、参加して良かったと思えるようにしてほしい。

⑦ 町や各種団体および公民館等が実施する年間の行事についてどう思いますか。

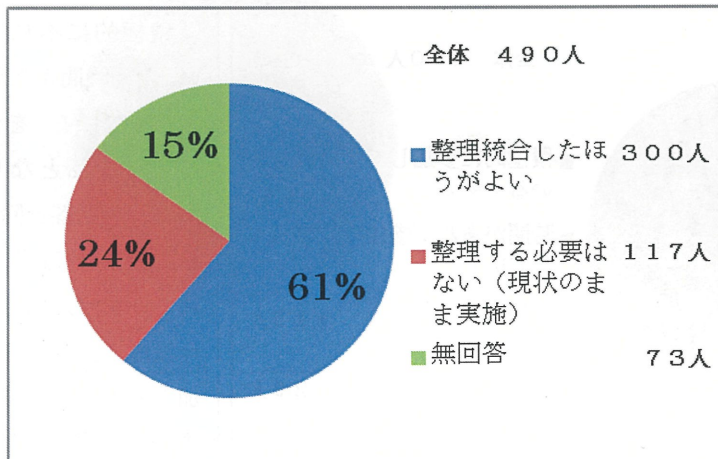


過半数以上の方が多いと感じ、負担になっているようです。今後は、行事内容や数の見直し等について検討し改善を図る必要があると思われます。

【意見】

- ・行事が少ないと町に活気がなくなり、衰退する。
- ・行事の数をもっと少なくしてほしい。
- ・行事に係る会議の回数を減らしてほしい。

⑧ 同じような目的で実施する行事についてどう思いますか。

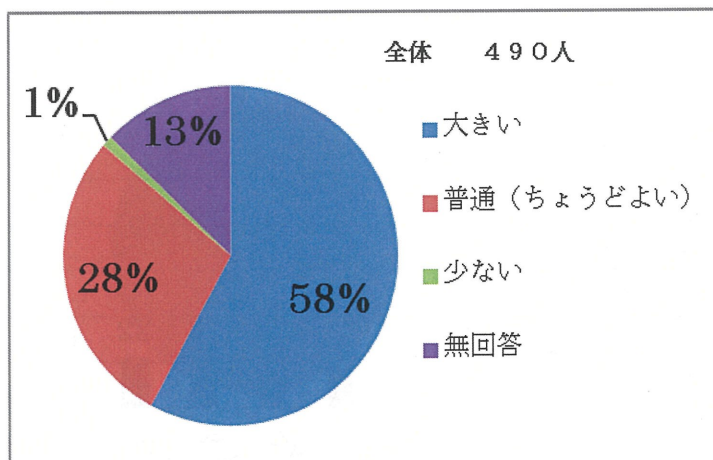


回答者全体の61%の方が行事数や行事の目的を整理した方がよいとの回答でした。今後は、行事の統合等について検討する必要があると考えられます。

【意見】

- ・活動主体（団体）が多すぎる。目的が同じなら統合すべきだと思う。
- ・いろんな体験は多い方が良い。統合する必要はない。
- ・「今まで継続している」からの理由で続けるのではなく、必要性を判断してほしい。
- ・高齢者、子どもの負担を考えてほしい。統合して拡充する方が良い。

◎ 役員の負担についてどう思いますか。



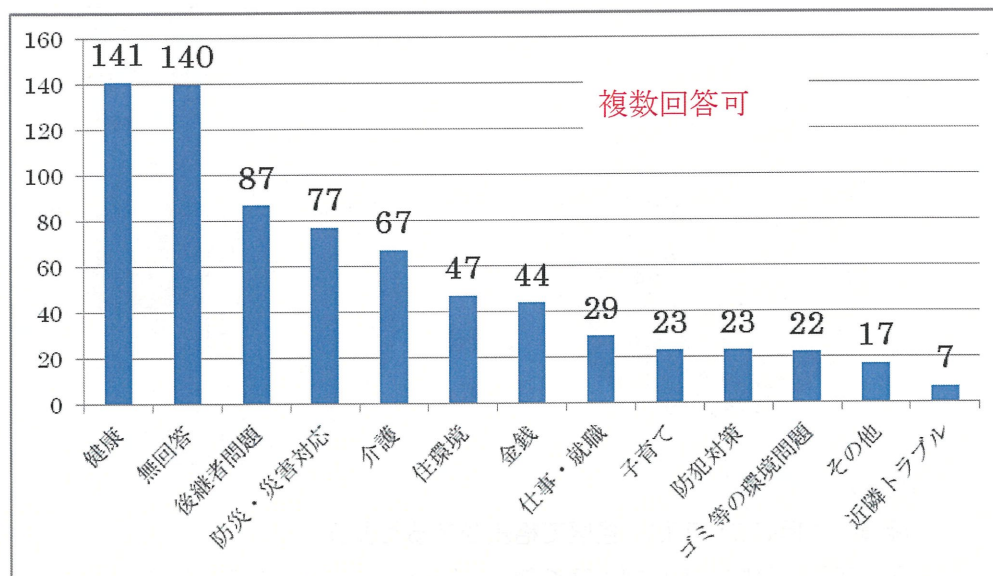
「大きい」と答えた方は、58%で、過半数以上の方が負担に感じているようです。町内には各団体・行政区毎に役員選出があり、重複して役員をされている方もいるようです。

【意見】

- ・役員の負担については、各区で格差があると思う。
- ・区長を引き受ける人材が少なくなっている。
- ・人数が減っているのので、このままでは自治会を維持できない。
- ・役員決めが大変である。最近拒否する人もでている。
- ・人数の少ない行政区は、何回も役員が回ってきて大変。
- ・町内の団体の数が多いため役員になる回数も増えている。団体を減らす。



⑩ 現在、困っていること、心配なことは何ですか。



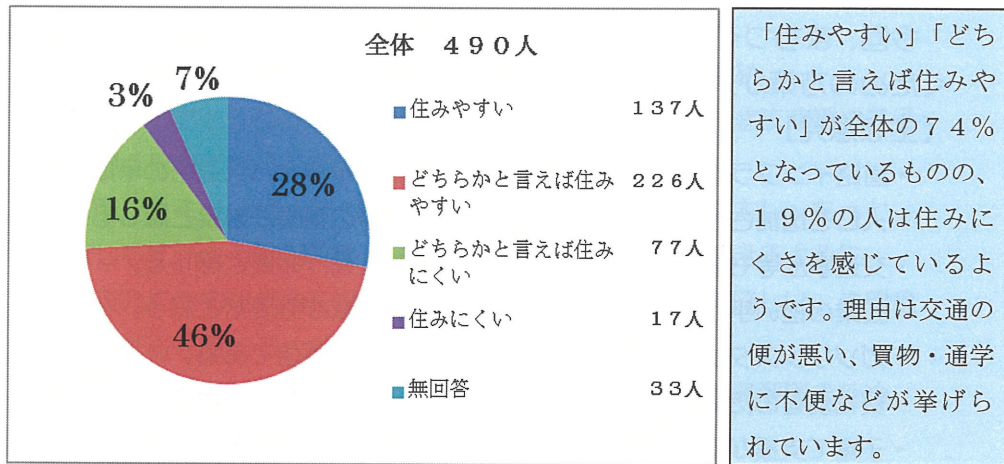
アンケート回答者全体490人のうち、無回答の140人を除く350人の複数回答となっています。一番心配されていることは「健康」で回答数141、次が「後継者問題」で回答数87、「防災・災害対応」回答数77、「介護」回答数67の順になっています。以下、住環境、金銭、仕事・就職、防犯対策、子育て、その他、金銭トラブルと続いています。回答者が比較的高齢の方が多かったことなどによりこのような結果となっています。

その他の回答をまとめると、「朝夕の交通渋滞」、「通学・病院通い等に交通費がかかる」などの道路問題、空き家・生活環境問題、自治会役員の問題などが挙げられています。

【主な意見】

- 朝夕の交通渋滞が酷い。臨港道路や国道204号バイパス道路の早期完成を。
- 市街地までの通院や通学、買い物が不便。交通費がかかるので大変である。
- 災害対策が不十分だと思う。治水対策や防災対策をしっかりとしてほしい。
- 市道の管理等で困っている。繁茂している草木の伐採を容易にできるようにできないか。など
- 未耕作農地が増え、隣接している田畑を管理するうえで大変困っている。
- 子どもたちを町内に住ませたくない。役員等の負担が大きい。
- 町内の情報が不足している。常会等でもっと情報提供をしてほしい。
- 少子高齢化で担い手が不足している。
- 個人の状況に応じた子育て支援が必要だと思う。支援の方法を検討すべき。

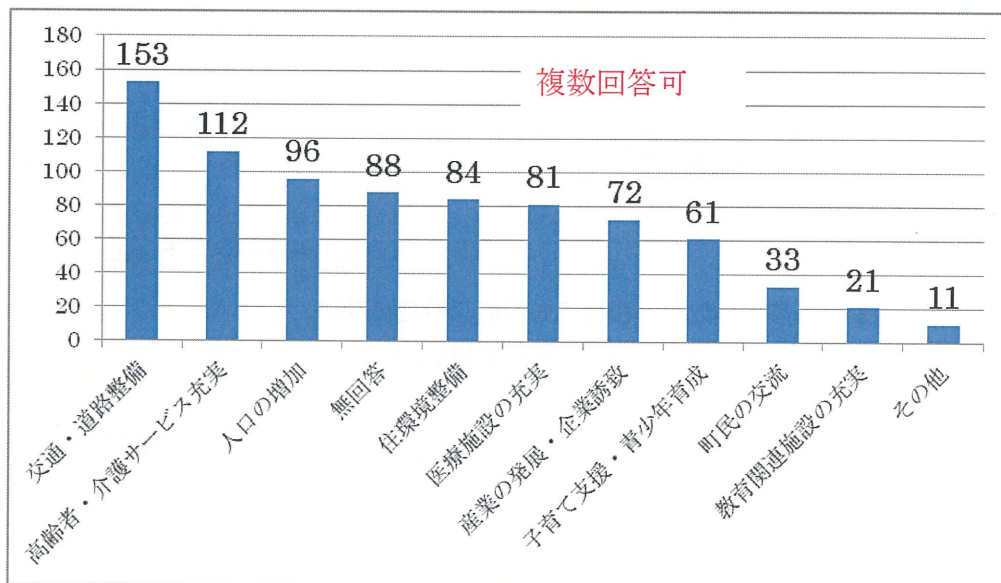
⑪ 黒川町は住みやすいまちですか。



【意見】

- ・小中学校と地域のつながりが良い。バックアップができています。
- ・飲食店や大きな病院、衣服などを買い物できる場所がない。
- ・公共交通が不便。渋滞や事故が多く不安。通学にも不便。
- ・病院、郵便局、農協や銀行、コンビニなどひと通りあるので住みやすい。

⑫ 住みやすくなるためには何が必要ですか。



アンケート回答者490人のうち、無回答の88人を除く402人の複数回答となっています。一番多かったのが、「交通・道路整備」で回答数153、次に「介護サービスの充実」で回答数112、「人口の増加」96、「住環境整備」84の順になっています。そのほか、「医療施設の充実」、「産業発展・企業誘致」、「子育て・青少年育成」、「町民の交流」、「教育施設の充実」、「その他」

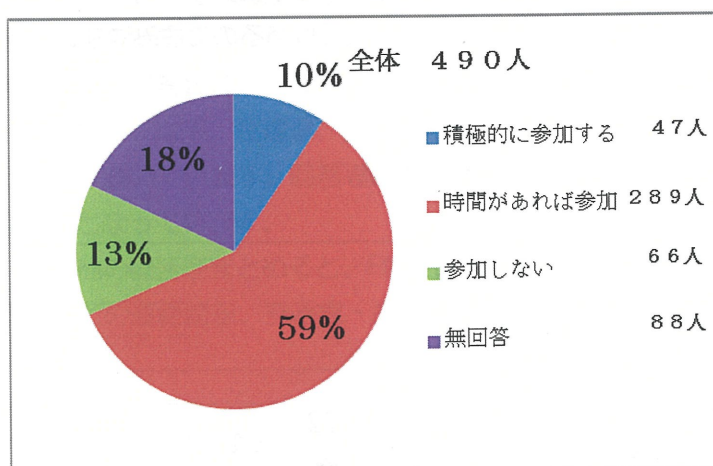
と続いています。その他の回答・意見として、「下水道整備」、「婚活」、「担い手問題」、「少数世帯の行政区の負担軽減」などが挙げられています。

今回、まちづくり計画策定にあたり、この結果を課題と捉え、改善解決に導くための方策が大変重要となってきます。

【主な意見】

- ・道路インフラ整備の充実、臨港道路や204号バイパス道路の早期完成を望む。
 - ・人口を増加させるため、住環境や企業誘致等の整備が必要と感じる。
 - ・交通事故等も多いため、信号機等の適切な配備が必要と感じる。
 - ・農業の担い手が不足しているため、後継者育成が必要だと思う。
 - ・ガソリンスタンドがなくなると聞いた。ないと不便である。
 - ・買物弱者のための取組みが必要である。公共交通をもっと充実させてほしい。
 - ・子育て支援が不足している。もっと当事者に寄り添った支援が必要ではないか。
- など

⑬ 地域が元気になるための活動があれば参加しますか。



「積極的に参加する」「時間があれば参加する」を合せると69%の人が協力的な回答となりました。今後は、すべての町民が元気なまちづくりに興味を持ってもらう理解を求めています。

【意見】

- ・健康なら参加したい。引きこもりになりたくない。
- ・無理なく参加できるように工夫してほしい。

⑭ 今後取り組んでほしい活動や継続してほしい行事等があればお書きください。

【意見】

- ・臨港道路や国道204号バイパス道路の早期完成に向けての要望活動
- ・高齢者対策の制度設計、運転免許返納後のケア
- ・若者世代（担い手）のリーダー研修
- ・地域の祭り等の活性化
- ・町内における婚活事業、空き家対策、定住の取組み
- ・新スポーツの開発、子どもたちが楽しめる祭りの実施など

⑮ 黒川町のことで感じていることがあれば自由にお書きください。

【意見】

- ・ 住環境や空き家対策、買物施設の充実が必要と感じる。
- ・ くらがわ号の運行回数や車両台数等の増加が必要ではないか。
- ・ 基本理念のもと、じっくりと活動を続けていけば過疎化も進まず活力あるまちづくりができると思う。
- ・ 伊万里ファミリーパーク（夢みさき公園）の利用時間を拡大し、もっと利用しやすいようにしてほしい。トイレ等も自由に使用できるように。
- ・ 黒川町内に住宅造成地を設けることができないか検討してほしい。住環境が整えば町を離れる人が減るのではないかと思う。
- ・ 朝夕の交通渋滞が酷く、交通事故も多数発生している。渋滞解消のため、臨港道路や204号バイパス道路の早期完成を要望したい。
- ・ 町内の行事を減らしてほしい。町民はかなり負担になっていると思う。
- ・ 学校トイレを水洗化にしてほしい。また、公共事業は積極的に要請してほしい。自治公民館のバリアフリー化に取り組んでほしい。
- ・ 名村地区の自治会運営について企業としての支援を行ってほしい。
- ・ 防災対策、治水対策、立川水系整備計画における河川工事の早期完成をお願いする。
- ・ 町内行事を統合整理して、町民の負担を減らしてほしい。役員の集まりも多く負担が大きい。
- ・ 家読の活動が今ひとつ見えない。対外的なことより、町内の活動を充実させたほうがよいのではないか。
- ・ 黒川町を離れていく人が多いのは、住みにくいということだと思う。
- ・ とても良い町。住みやすく、人もやさしいと感じる。
- ・ 地区社会福祉協議会を中心に実施される生活支援整備事業が不透明で不安。
- ・ 子どもたちが成長すると町を離れてしまう。何か留まる手段（取組み）を市と協働で行うべきではないか。など

(3) 各団体等の意見

町内には、小学校、中学校、幼稚園、市の出張所（公民館）、林業研修センター、ゲートボール場や公園などの公共施設に加え、こども園、病院、コンビニ、金融機関・郵便局、神社、介護施設・福祉施設があるほか、七ツ島工業団をはじめ、多数の企業が立地しています。また、各施設の事業をサポートし、様々な事業を開催する町内の団体も多数存在しています。

●各種団体

まちづくり運営協議会・区長会・生産組合長会・自治公民館主事会・体育協会
公民館運営審議会・ふるさと研究会・黒川塾実行委員会・青少年育成町民会議

人権同和教育推進協議会・防犯協会・子ども会育成会・交通対策協議会
 交通安全協会・明るい選挙推進協議会・開発促進協議会・老人会（三地区）
 地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会・家読連絡会・親と子の読書会
 おはなしどんぐり・黒川町パトロール隊・子ども見守り隊・食生活改善推進協議会
 農協青年部・農協女性部・消防団（黒川分団）・黒川小学校育友会・黒川塾
 青嶺中学校育友会・地区防災会・黒川小学校サポーター・福祉活動員会
 その他各種実行委員会など

【主な意見】

区長会	区長（駐在員）を決める際に苦慮している。特に世帯数の少ない行政区については、同じ方が何回も区長をしている状況である。区長は駐在員や生産組合長、団体役員など多くの役割に加え、区の環境整備や区民の安全を守る防災対策など業務が多岐にわたり負担が大きくなっている。
体育協会	町民等から年間を通して体育行事等が多いとの声があがっている。町人口も減少し、事業への参加者の確保が難しくなっているため、スポーツ事業全体の見直しが必要になってきている。また、怪我や事故等のリスク管理についてもしっかりと協議する必要がある。
子ども会育成会	町の子ども会行事については、子ども伊万里塾開催事業等への移行で少なくなり役員の負担は軽減された。しかし、近年の環境変化等により、熱中症等や怪我等へのリスク管理の徹底が求められる。年間のスケジュールについては、町や各団体行事等との調整に苦慮している。深山地区については4地区から一人の役員に変更できないか検討してほしい。
自治公民館主事会	主催事業が少なく他の団体や実行委員会の事業サポートが多い。主事会役員は、各行政区の区長と連携し活動を行うことになるが、各行政区の活動状況はまちまちであるため必要性を感じないとの意見も出ている。
民生委員児童委員協議会	個人情報保護やプライバシー保護の観点から、サポートすべき町民の情報の入手が困難になってきているため、素早い対応が取れにくくなっている。介護保険法の改正により新たに開始される「生活支援体制整備事業」の実施について不透明な部分が多く、今後の対応が不安である。
老人会（三地区）	会員の獲得に苦慮している。65歳からの入会を勧めているが、なかなか入会者が増えない状況である。老人会の行事が多いと感じている会員が増えてきている。行事等の整理について検討しなければならない。
生産組合長会	黒川町では、区長と生産組合長を兼ねているため、2つの業務に関する各種手続きや現地確認などでとても忙しい。区長、生産組合長の負担軽減について検討等が必要ではないかとの意見も出ている。後継者問題や中山間地農業の改善など、多くの問題を抱えている状況である。
開発促進協議会	北部地区振興協議会と連携し国・県・市のハード事業等の要望活動を行っている。早急な対応は難しいことが多いため、継続して要望することが重要である。団体の活動について町民の認識が薄いようだ。

ふるさと研究会	会員が増えない。会員は殆どが 70 歳以上の高齢者のため、積極的な活動が難しくなっている。これまで町内の史跡保護や史跡看板の設置等を行っているが、財源の確保が難しく後継者不足もあり継続が困難になってきている。既存の看板の定期的な管理を徹底しなければならない。
▼各種実行委員会 クロスカントリー実行委員会	大会の事前準備や運営については、改善等図り、スムーズにできるようになった。平成 29 年度は参加費を事前振込に変えて役員の負担軽減を図り、平成 30 年度はホームページの開設により参加情報の周知を行った。しかし、以前と比べ一般の参加者が減ってきているため、競技内容の見直しが必要である。役員からは、小中学生限定の大会にするとか検討してもよいのではないかと意見も出ている。
▼各種実行委員会 西九州風揚げ大会	農協青年部の会員数が減少していて、事業を実施する際の負担が大きくなってきている。現在は農協主体で行っているが、今後も継続するのなら、地域の協力者を増やす必要がある。(継続するかどうかを検討)
家読連絡会	毎週土曜日の土曜図書館の利用者が激減している。少子化の影響もあるが、保護者からは子どもたちも様々な活動等もあり時間が取れないなどの意見もでている。今後は中止を含め、開催回数等の見直しを行うなど検討が必要である。
黒川小学校育友会	県道 297 号(塩屋大曲線)の大型車両等の増加による交通事故の危険性が高くなっているため注意が必要である。子どもへの声掛け事案等も他地区では発生しているため見守りの強化が必要である。
防犯協会	子どもの見守り活動については、黒パト隊や子ども見守り隊等により防犯活動を実施している。活動中に子どもに会うことはあまりないが、犯罪を未然に防ぐ抑止力になっている。
地区社会福祉協議会	市の事業「生活支援体制整備事業」の進め方等を検討しなければならないが、全体像が見えないため、何から始めて良いかわからない。福祉活動員の役割等を整理し、民生委員等との連携を図りたい。
交通対策協議会	市道の改修など、各区からの道路整備に関する要望があるが、市の交対協へ要望しても改善までかなり時間がかかる。また、市で優先順位をつけるため、優先順位が低くなれば、いつまでたっても改善されない。対応策を考える必要があるのではないかと。
交通安全協会	各地区の役員の殆どが仕事を持っているため、早朝や夕方、休日等に活動されている。そのため、通勤時間と子どもたちの登校時間がかぶる 7 時~8 時にかけて、立哨等ができる役員が少ない。年 4 回の交通安全週間に交通安全に関する啓発活動を広報車(公民館公用車)で行っているが、車両で回る広報については増やした方がよいのではないかと。
人権同和教育推進協議会	市の人権同和教育担当部署と連携し、町における地区巡回講座および各団体向けの研修を計画的に行っている。今後は、更なる啓発を図るため、企業やグループ向けの研修会の開催を検討していきたい。

黒川幼稚園	地域交流（老人会等）や子育てサロン（H30年度）を開催するなど、園児数を増やす努力をしているが人口減少と比例して園児数も減少している。今後はもっと気軽に未就学児が幼稚園に来ていただけるような取組みを考えたいので、協力をお願いしたい。
黒川小学校	公民館をはじめ、町内の団体、町民の皆さまには、学校行事等に積極的に参加していただいて、大変助かっている。今後も協力をお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・町行事等が多く、学校行事とかぶってしまうこともあるので、調整を行う必要があるのではないかと思う。 ・児童の通学について、もう少し遠距離バス通学者の負担を減らすようにできないか検討してほしい。（保護者の送り迎え等の軽減など）
青嶺中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が関わる行事の日程を波多津町と合わせるよう調整できないか。2020年度から運動会を5月にするよう計画しているため町内行事等の調整をお願いしたい。 ・町内関係団体の会議がとて多いと感ずる。もう少し会議を減らすことはできないか検討してほしい。 ・生徒数が減少し、職員も減少していくことが予想されるため、部活動などの指導者が不足すると思われる。地域で指導できる人材がいれば紹介してほしい。
青嶺中学校育友会	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の整備をしっかりとしてほしい。防犯灯など不足しているところには設置等できないか。 ・学校から4km～6kmの通学者も多いので、スクールバスの利用について緩和することができないか。

(4) 課題の整理

町民アンケートや各種団体等の意見、そのほか、これまでのまちづくり運営協議会等の会議で出た意見などから町の課題について整理しました。

▼インフラ整備、環境整備について

課題1	国道204号の交通渋滞が酷く、事故も頻繁に発生している。渋滞解消のため、臨港道路及び国道204号バイパス道路整備の早期完成が望まれる。
課題2	立川整備を早急に進め浸水被害がでないよう万全な治水対策を施す必要がある。
課題3	公共交通が少なく高齢者等の移動手段の確保が難しい。今後は、くろがわ号の運行ルート拡大や車両等の拡充について検討が必要である。
課題4	買物施設が少なく不便である。
課題5	空き家対策も遅れている。
課題6	黒川公園の管理が不十分で安心して使用できない。不良設備は解体すべきだ。

▼介護・医療・福祉の拡充について

課題7	町内の病院は1カ所で、内科・外科等の一般的な診療のほか、入院施設も整っている。しかし、診療科目が限られるため、部位・病状によっては町外に通院しなければならない。医療機関が少ないのが現状である。
課題8	老老介護をしている世帯も増えている。そのため、今後本格的に開始される「生活支援体制整備事業」の人材確保は難しいのではないかと。
課題9	町内の自治公民館は老朽化していて、バリアフリー等の対応ができていないところが多く、妊婦や障害をお持ちの方には大変使いづらい状況である。

▼産業と後継者問題について

課題10	農業労働者の高齢化や後継者が少ない状況が続いていて、耕作放棄地も増えている状況である。
課題11	黒川町は、中山間地域で農業を営む農家が多く、生産性も低く、イノシシ等の被害も多く発生している。
課題12	地域農業の担い手となる認定農業者や集落営農組織などの育成や経営の効率化に向けた取組みが必要となる。
課題13	少子高齢化に伴い人口が減少しているなか、高校を卒業した子どもたちの多くが地元を離れていくため、労働力（担い手）が不足している。

▼子育て支援、教育問題について

課題14	個人の生活環境に応じた子育て支援が必要。
課題15	地域のつながりが希薄化され、支え合い等による子育てが難しい状況である。
課題16	家読の活動が今一つ見えない。もう少し、町内の活動を充実させることが必要ではないか。（土曜図書館等の利用者も減少している状況）
課題17	地域における教育力を向上させるためには、これまで以上に「学校・家庭・地域」が連携した取組みを継続するための仕組み（組織）の強化が必要。

▼活性化のための取組みと役員の負担について

課題18	町内の団体数が多いため、各団体が実施する事業も多い。そのため、内容や目的が同じようなものを別々に実施するなど、非効率である。
課題19	町民が役員となり、各団体の運営を行っているが、町内の行事数が多く、役員の負担が大きくなっている。今後ますます超高齢化社会となり、担い手の人口が減ることが予想されるため、事業・行事等について抜本的に見直すことが急務である。
課題20	役員になることが嫌で町を離れることを考える人もいる。

3. これからの黒川町

(1) まちづくりのキーワード

町民アンケート、各種団体等の意見や伊万里市のまちづくりのためのキーワードをまとめました。

黒川町 これまでのキーワード	豊かな自然・活気・人づくり・子育て・資源の活用・スポーツ 産業の共生・支え合い・健康・安全安心・人情・郷土愛・交流 教育・歴史と文化・安心安全・生きがい
黒川町 アンケート等のキーワード	インフラ整備・住環境・医療・介護・人口増加・産業・子育て・ 青少年育成・交流・後継者育成・相互扶助・婚活・スポーツ 生きがい・活気・健康・福祉・自然・つながり・安心・防災・ 教育・協働など
伊万里市【参考】 まちづくりのキーワード	安心安全・健康・郷土愛・教育・文化保存と伝承・スポーツ・ 共生・福祉・医療・介護・地域連携・産業・観光・国際化・ 子育て・青少年育成・生きがい・後継者・生活環境・インフラ 整備・住環境・防災・自立・協働など

●共通するキーワードは、
自然、活気、子育て、スポーツ、産業、健康、安心、生きがい、交流、教育
などです。

●新たなキーワードは、
協働、防災などとなっています。

(2) 基本理念（根本となる考え方）

黒川町の基本理念は、これまでの町民憲章の考え方をもとに、町民アンケート結果や町民意識の変化を勘案し、一部のキーワードを追加して次のとおり定めました。

「人が元気で住みやすく 生きがいと支え合いのある 協働のまちづくり」

この基本理念は、黒川町が推進するあらゆる分野の事業等において、共通の理念となるものです。

(3) 将来像（町のイメージ）

将来像は、黒川町が目指す姿を示し、まちづくりの象徴となるものです。これまでの将来像を踏襲しつつ、新たなキーワードを追加し、より分かりやすく表現しています。

黒川町の豊かな自然の中で、生き生きとして健康で、明るく楽しく生涯を暮らすことは、町民共通の願いです。誰しも地域社会から孤立して生きていくことはできず、何らかの形で社会と結びつき、お世話になっていることを気づかなければなりません。これまでの行政主体のまちづくりから、町民が主体となり、一人ひとりが地域づくりに貢献することを基本に、行政と町民の協働によるまちづくりを進め、住民同士の触れ合いや交流を通して繋がりを深めていきます。

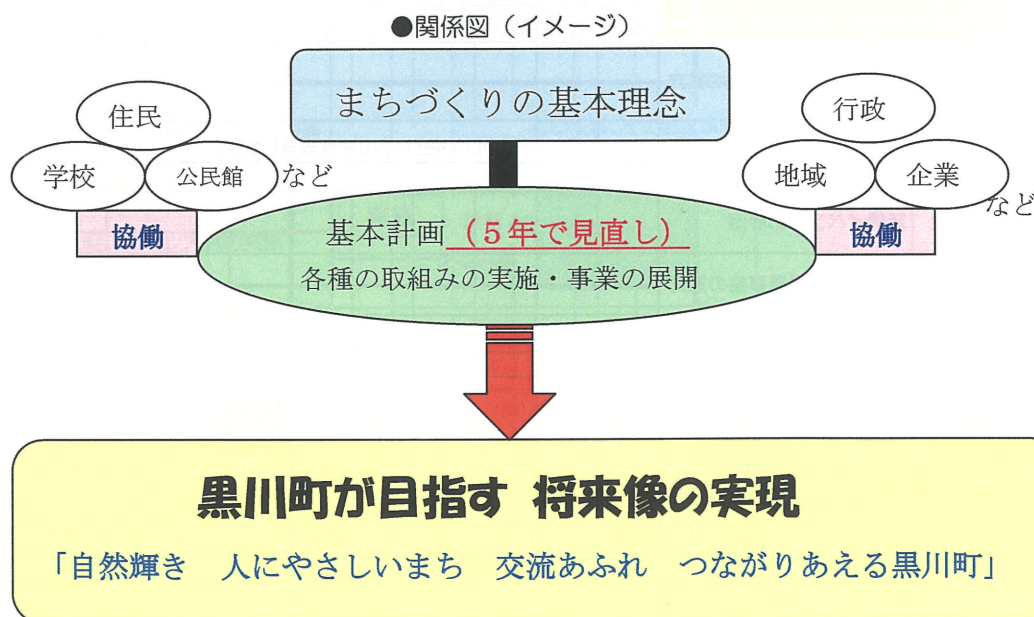
これからの黒川町が目指す将来像は ↓

「自然輝き 人にやさしいまち


交流あふれ つながりあえる黒川町」

(4) 基本計画








基本理念のもと、将来像の実現のため、黒川町まちづくり運営協議会の5つの部会ごとに目標を定め、地域の課題解決に向けた具体的な事業計画についてまとめました。




① 地域振興部会

部会名	地域振興部会					
目標	地域資源の活用と交流を通じたコミュニティの活性化					
構成団体	区長会・生産組合長会・開発促進協議会・自治公民館主事会・農協青年部 農協女性部・ふるさと研究会					
【現状】 クロスカントリー大会等については改善を図りながらファミリーパーク開園当初より継続して実施しています。近年、参加者が減少しているため、参加者を増やすための工夫が必要です。基本的には継続事業として実施します。ふるさと再発見事業については、平成27年度から飛太郎岩の環境整備を継続して行っていて町民を対象とした探訪ツアーとあわせ今後も取り組んでいきます。これまでの既存事業を続けている状況です。	【課題】 人口の減少に伴い会員及び協力者も比例して減少していて、事業を増やすことは厳しいため、既存事業をどこまで継続するかを検討しつつ、部会事業における「スクラップ アンド ビルド」により効果的な事業運営が必要となります。今後は、より町民が参加しやすく、負担がかからない取組みへのシフトが求められています。					【施設整備の要望】 黒川町開発促進協議会において、伊万里ファミリーパークの多目的グラウンド建設について佐賀県に対し要望しています。
 現状と課題から今後の重点的な取組みを決定します						
重点的な取組み	【重点1】 自然を活かした特色あるイベントの開催と交流の取組み					
	【重点2】 遺跡保護や伝統文化の継承、郷土愛を育むための取組み					
	【重点3】 産業支援と環境整備、担い手づくりのための取組み					
具体的な行動計画	年度ごとのスケジュール（2018年度～2023年度）					
		前期			後期	
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
【重点1】	クロスカントリー大会の拡充	→				
〃	クロスカントリー大会の内容改善・見直し	PDCAを回しその都度改善していく →				
〃	新規イベントの計画	← 検討 →				
【重点2】	ふるさと再発見事業の拡充	→				
〃	伊万里学の推進 (黒川塾・子ども伊万里塾開催事業)	→				
〃	新規イベントの計画 (特産物を使った商品開発・外国人との異文化交流など)	← 検討 →			実施 →	
【重点3】	地域協力者・担い手の育成	← 取組みの検討 →			実施可否 →	
〃	自然保護と施設・環境整備の要望	→				
〃	地場産業の魅力紹介	← 検討 →				


② 体育推進部会

部会名	体育推進部会					
目標	スポーツの推進と生きがいづくり					
構成団体	体育協会					
【現状】 黒川町のスポーツ行事は、年間を通して各団体開催分を合わせると20以上の行事が開催され、市内でもスポーツが盛んな町と言えます。スポーツ行事により、町民の交流や生きがいづくりに貢献しているといえます。反面、近年は町の人口減少に伴い各行事への参加人数が減少していて、選手確保が困難な行事もあるようです。	【課題】 競技内容の検討・改善、ケガ人の対応、その他リスク管理の部分での協議を十分に行う必要があります。町内の各団体すべての行事について、トータル的な調整（行事の取捨選択）が必要になってくると思われます。					
 現状と課題から今後の重点的な取組みを決定します						
重点的な取組み	【重点1】 スポーツを通じた町民交流の取組み					
	【重点2】 生涯スポーツの実践と健康づくり					
具体的な行動計画	年度ごとのスケジュール（2018年度～2023年度）					
	前 期			後 期		
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
【重点1】 町民体育祭・町民球技大会・ナイターソフトボール大会・夢みさきクロスカントリー大会・町内一周駅伝大会等の実施	今のところ継続の見通し 					
// 上記大会等の見直し・改善	 PDCAを回しその都度改善していく					
// 軽スポーツ大会の実施	実施  検討  継続するか どうか決める					
伊万里ファミリーパークの施設整備要望						
【重点2】 新規事業（健康づくり）の検討・提案	検討 					


③ 青少年育成部会

部会名	青少年育成部会					
目標	学校・家庭・地域の連携による教育力の向上と健全育成					
構成団体	青少年健全育成町民会議・子ども会育成会・黒川小学校育友会・青嶺中学校育友会・親と子の読書会・家読連絡会・学校サポーター					
【現状】 各団体の取組みや事業の実施については、連携した取組みが比較的にできています。特に家読の取組みについては、平成19年度から継続して活動されていて、絵本等を通した「親と子のきずなづくり」、 「子どもたちと地域の人との交流」が積極的に行われています。育友会行事や子ども会行事等への参加者も多く、子どもたちがいろんな体験ができる機会が増えています。	【課題】 学校の勉強はもちろんのこと、社会体育活動や塾、習い事等に通う子どもたちも増えているなか、子ども向けの講座や体験学習、学校・地域の行事は増えているため、子どもたちの負担が大きいとの声が保護者よりあがっています。今後は、事業の取捨選択と、目的・内容・成果を明確にし、効果的な事業を実施することが求められます。場合によっては、各団体の事業を統合し整理することも必要です。子ども、保護者への負担を減らしながら、十分な成果・効果がある質の高い事業の実施が重要です。					
 現状と課題から今後の重点的な取組みを決定します						
重点的な取組み	【重点1】 親と子のきずなづくりと家読（うちどく）の推進					
	【重点2】 地域の連携による交流の取組み					
	【重点3】 インターネット等の情報利用と防犯対策					
具体的な行動計画	年度ごとのスケジュール（2018年度～2023年度）					
		前 期			後 期	
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
【重点1】 家読（うちどく）の推進	→					
〃 防災キャンプの実施	→ ← 廃止又は継続判断					
〃 子ども会活動の推奨	→					
〃 部会構成団体の事業整理	← 検討 →					
【重点2】 子ども伊万里塾開催事業（黒川キラリっ子スクール）の実施	PDCAを回しその都度改善していく →					
【重点3】 ネット犯罪に関する啓発活動と出前講座の開催	← 検討 →					

④ 健康福祉部会

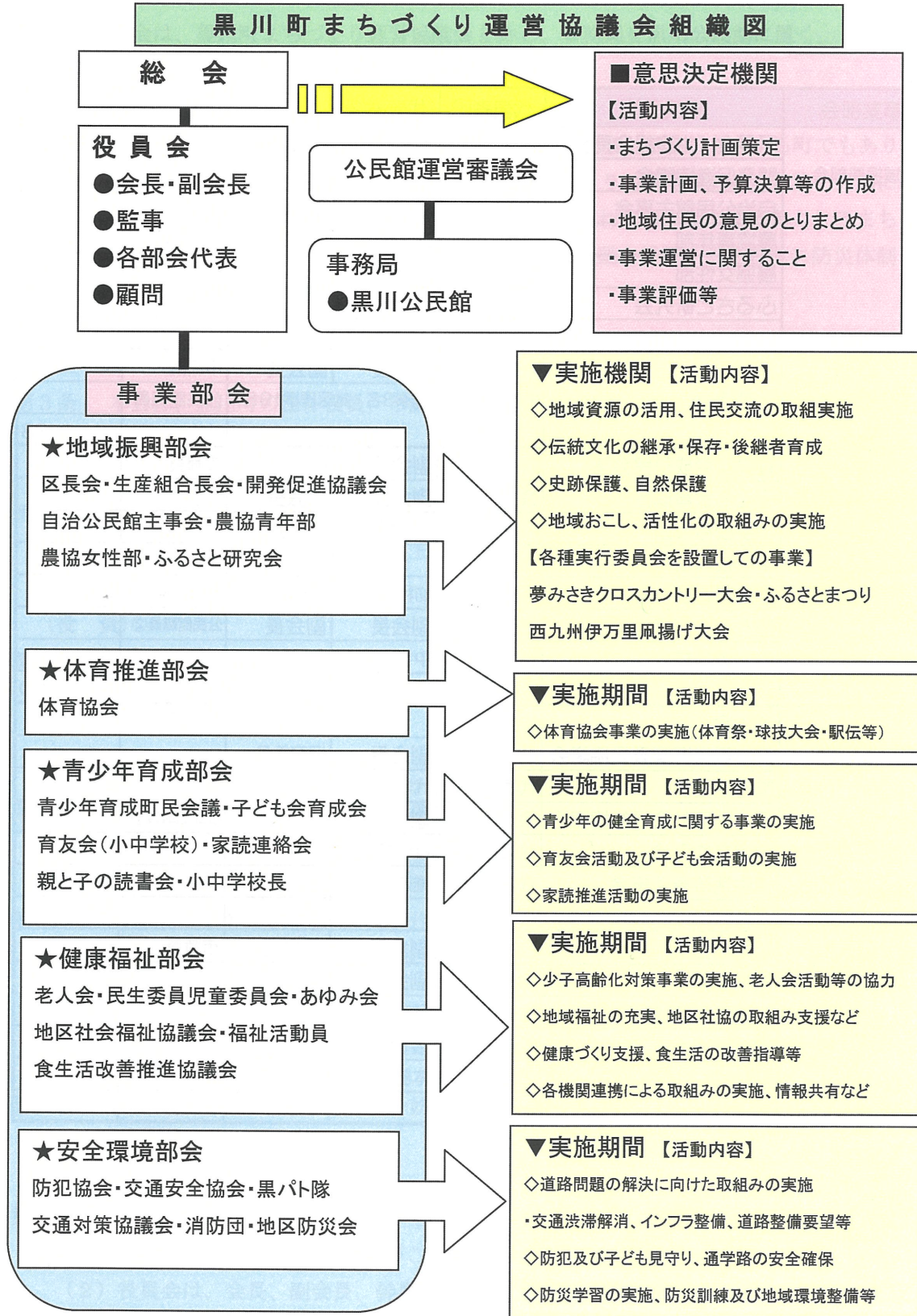
部会名	健康福祉部会					
目標	健康寿命の延伸と支え合い社会の実現					
構成団体	老人会・黒川地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会・あゆみ会 食生活改善推進協議会・福祉活動員					
【現状】 町内における地域福祉の向上と健康づくり、町民交流などの各種事業を開催しています。部会事業では「地域の健康増進事業」として、がん検診や特定健診への受診の呼びかけ、チラシ配布等による啓発を行い、心身ともに健康で暮らしていただけるための活動を行っています。また、町内の高齢者の独り暮らし世帯には、あゆみ会を中心として交流・見守り等も行われています。	【課題】 今後、本格的に事業展開がなされる「生活支援体制整備事業」をどのように進めていくのか、具体的な検討が必要です。					
 現状と課題から今後の重点的な取組みを決定します						
重点的な取組み	【重点1】健康づくりと町民交流					
	【重点2】介護支援の取組みと高齢者の生きがいづくり					
具体的な行動計画	年度ごとのスケジュール（2018年度～2023年度）					
	前 期			後 期		
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
【重点1】	部会事業「地域の健康増進事業」の実施					→
〃	各団体事業の実施					→
〃	事業見直し・新規事業の開催	← 検討 →				→
【重点2】	生活支援体制整備事業の導入	← 検討 →		本格実施		→
〃						

⑤ 安全環境部会

部会名	安全環境部会						
目標	安心安全で暮らせる環境づくりと防災対策						
構成団体	防犯協会・交通安全協会・交通対策協議会・地区防災会・消防団						
【現状】 伊万里市は玄海原子力発電所から30km圏内となっていて、市の北部に位置する黒川町は、直線距離で20km程と、より発電所に近いため、事故発生においては迅速な行動での避難が必要となります。行政区別の避難所のルート確認や避難行動について研修会等や豪雨災害等の対応・行動の確認等についても研修会を実施しています。生活環境面においては、町民が安心して生活できるための環境整備を随時行っています。	【課題】 住んでいる場所や生活環境等を考慮した避難訓練を行政区単位で定期的実施することが必要だと思われます。生活環境面においては、七ツ島工業団地への朝夕の通勤車両が、町内市道をスピードを上げて走行していて大変危険だとの声が寄せられています。決められた通勤ルートを通ってもらうよう定期的に関係企業に呼びかけが必要です。道路の改修や整備等、ごみ問題等については、区長会等と連携しながら、随時要望していく必要があります。						
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">現状と課題から今後の重点的な取組みを決定します</div>					
重点的な取組み		【重点1】 防災研修会の開催					
		【重点2】 安心安全な生活環境づくり					
具体的な行動計画		年度ごとのスケジュール (2018年度～2023年度)					
		前 期			後 期		
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
【重点1】	避難訓練・研修会の実施						→
【重点2】	道路の改修や整備について	随時要望					→
//	環境整備・インフラ整備の要望	随時要望					→

4. 資料

(1) 組織図



(2) 事業部会の構成メンバー

黒川町まちづくり運営協議会 事業部会構成員

平成30年度

事業部会	構成団体	代表者①	代表者②		市支援	顧問
地域振興部会	区長会（生産組合長会）	会長	副会長	副会長	市職員	顧問①
	開発促進協議会	幹事	企業	企業		顧問②
	自治公民館主事会	会長	副会長	副会長	公民館職員①	
	農協青年部	部長	副部長	副部長	公民館職員②	
	農協女性部	部長	副部長			
	ふるさと研究会	会長				
						20
体育推進部会	体育協会	会長	副会長	副会長	市職員	
		常任理事6名・理事3名・地区理事19名			公民館職員	
青少年育成部会	青少年育成町民会議	会長	副会長		市職員	
	子ども会育成会	会長	副会長	副会長		
	小学校育友会	会長	副会長	副会長		
	中学校育友会	会長				
	家読連絡会	代表	幼稚園長	保育園長	公民館職員①	
	親と子の読書会	会長	副会長	副会長	公民館職員②	
	小・中学校	小学校長	中学校長			
						20
健康福祉部会	老人会	町会長			市職員	
	民生委員児童委員協議会	会長	副会長	児童委員		
	福祉活動員	代表	代表			
	黒川地区社会福祉協議会	会長	副会長		公民館職員①	
	黒川あゆみ会	代表	副代表			
	食生活改善協議会	代表	推進員			
						14
安全環境部会	防犯協会	会長	副会長	副会長	市職員	
	交通安全協会	会長	副会長	副会長		
	交通対策協議会	会長	駐在所			
	地区防災会	代表	委員		公民館職員①	
	消防団	分団長	本部部長	本部部長	公民館職員②	

(3) 規約

黒川町まちづくり運営協議会規約

(名 称)

第1条 本会は、黒川町まちづくり運営協議会と称し、事務局を黒川公民館に置く。

(目 的)

第2条 黒川町は海と山の自然に恵まれた町である。また農業と企業が共存する町でもあり、人と人とのつながりを大切にしている。元気な地域づくりの基本理念を「自然を大切にみんなの協力で心豊かに暮らせるまち」とし、自然に恵まれた黒川町の魅力あふれるまちづくり、地域・家庭・学校が連携し、青少年の健全育成活動を推進するとともに防災体制を整備し、住民が安心して暮らせるまちづくりを目指す。

(組 織)

第3条 本会は、黒川町の団体役員、市議会議員、学識経験者をもって、組織する。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 元気な地域づくりを推進する上で必要な事項

(役 員)

第5条 本会に次の役員を置く

会長1名 副会長2名 監事2名 各部部长 事務局長1名

(役員選任)

第6条 前条の役員は、会員の中から推薦する。

(役員の仕事)

第7条 会長は、会務を統理し、本会を代表する。

副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、これを代行する。

監事は会計を監査する。

(役員の仕事)

第8条 役員の仕事は1年とし、再任を妨げない。

(会 議)

第9条 本会の会議を総会、役員会とする。

(1) 随時必要と認めたとき会長がこれを召集する。

(2) 役員会は、会長、副会長、幹事、部部长、監事、副部长、事務局長で構成する。

(役員会の召集)

第10条 役員会は、必要に応じ会長がこれを召集する。

(役員会の審議事項)

第11条 役員会の決議を要する事項は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算に関する事項
- (2) 事業計画

(総会の審議事項)

第12条 総会の決議を要する事項は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算に関する事項
- (2) 事業計画
- (3) 規約の変更
- (4) その他本会の運営上特に重要と認められる事項

(会議の運営)

第13条 会長は、会議の議長となり議事を運営する。

(議事の採決)

第14条 議事の出席者の多数決をもってあてる。

(会費)

第15条 本会の会費は、市の交付金および町からの助成金をもってあてる。

(顧問)

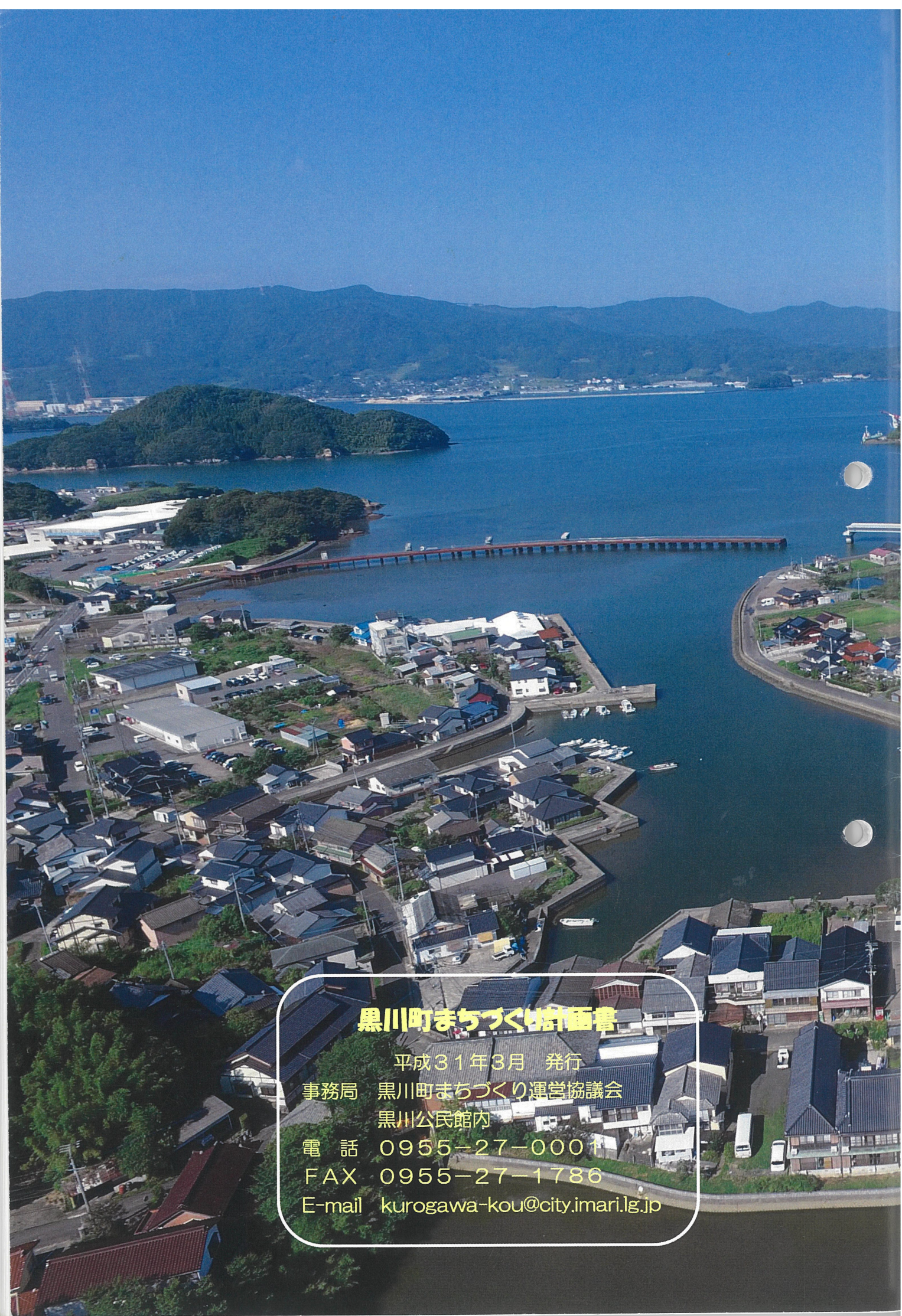
第16条 協議会に顧問を置くことができる。

- 2、顧問は会長が委嘱する。
- 3、顧問は必要に応じて会議に参加する。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付則1) 平成20年11月1日から施行する。



黒川町まちづくり計画書

平成31年3月 発行

事務局 黒川町まちづくり運営協議会
黒川公民館内

電話 0955-27-0001

FAX 0955-27-1786

E-mail kurogawa-kou@city.imari.lg.jp